

会 議 録

| | |
|--------|--|
| 会議名 | 平成18年度第3回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会 |
| 開催日時 | 平成19年2月26日(月)午後2時00分から4時00分 |
| 開催場所 | 宇都宮市教育センター コミュニティーホール |
| 出席者 | 【委員】 今井昭男, 杵渕広, 中島宏, 真壁英敏, 渡辺通子, 服部美佳子, 金枝右子, 寺内典子, 結城笑子, 入江操, 島田義彦, 渡部修三, 椎名 雅彦, 若月章男, 柏崎一三, 新津謙治(計16名) 【事務局】 福田環境部長, 他22名 |
| 公開・非公開 | 公開 |
| 傍聴者数 | なし |
| 議事 | 1. 一般廃棄物処理施設基本構想(案)について 2. 平成19年度一般廃棄物処理実施計画(案)について |
| 会議結果 | 1. 基本構想(案)に基づき事務局から報告(質疑応答) 2. 実施計画(案)について事務局から報告(質疑応答) |

| 議 事 | |
|-----|---------------------------------|
| 1. | 一般廃棄物処理施設基本構想(案)について 事務局から説明 |

| 発言要旨 | |
|----------------------|---|
| 一般廃棄物処理施設基本構想(案)について | |
| 新津委員 | <ul style="list-style-type: none"> ごみを20%減量するなら, その他プラスチック製容器包装(以後, その他プラ)より, ごみに占める割合が大きい生ごみを減量する方が効果的なのではないか。三重県で生ごみを固形燃料として利用する事業があったが, 今はどうなっているのか。 その他プラを原料として使うのなら, どうして破碎して梱包する必要があるのか。選別だけで済むのではないか。また, 高炉で使うというのは, 燃料として使うのか。溶融スラグに関しても, 現在最終処分場に埋め立てているが, 使い道に見込み違いがあるのではないか。その他プラも一時の流行に乗らず, 使い道など慎重に検討して欲しい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 焼却ごみの固形燃料化(RDF)については, クリーンパーク茂原の建設を計画している平成8年頃, 県の企業庁が検討していたが, 建設場所の都合がつかず断念した。このRDFは, 焼却ごみ量が少なくてごみ発電ができない市町が, 生ごみ等を固形燃料化し, RDF発電施設に搬入することにより, ごみ発電など廃熱の有効活用を図ることができるため進められてきた。しかしながら, 宇都宮市はクリーンパーク茂原で焼却ごみによるごみ発電を行なっている。このように焼却ごみをRDF化しなくても, ごみの処理を広域化し, ある程度の焼却ごみ量が確保されれば直接ごみ発電ができる。このため, 三重県ではRDFによる発電を実施しているが, 全国的にはあまり普及していない。 |

| | |
|------|--|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物処理基本計画では、平成22年までに、平成12年と比べてごみの20%削減を目標としている。今年度は全自治会を対象に、焼却ごみの15%を占めるその他の紙類を分別し、50%を占める生ごみでは手付かず厨芥の減量や水切りを促進するための説明会を実施してきた。また、事業系ごみのごみステーション排出禁止や、事業系生ごみを堆肥化するエコンティー宇都宮へ処理をお願いするなど、様々な施策を進めている。その他プラの資源化実施についても、基本計画の中で位置付けられている。1市3町で約9千トンのその他プラが削減可能になる。ご理解を賜りたい。 その他プラの破碎は行なわない。その他プラはポリ袋で収集し、受入ホッパーから袋を破くために破袋機にかけ、異物を取り除く。大変かさばるので効率化のため圧縮・梱包をする。また、現在ペットボトルも同じように圧縮・梱包をしている。その後、容器包装リサイクル協会に委託して、擬木やベンチに再資源化する。プラスチックにリサイクルするマテリアルリサイクルを優先的に行い、残りは鉄鉱石の高炉還元剤として、ケミカルリサイクルしていく。サーマルリサイクルは、安価な方法であるが現在は予定していない。 溶融スラグは最終処分場エコパーク板戸に埋立している。現在、県主催のエコスラグアスファルト合材利用連絡会で、溶融スラグ化を実施している県内自治体が集まり、利用方法を検討している。県では下水管理設時の周辺材としての利用や、昨年8月にアスファルトの骨材として国でJIS規格で認められたので、来年度は県南の足利・佐野・栃木の土木事務所でアスファルト合材として活用を予定している。宇都宮市ではストックヤードの確保や耐久性などを調査し、検討しているところである。 |
| 新津委員 | <ul style="list-style-type: none"> 現在の焼却処理でもクリーンパーク茂原で発電しているので、燃料として有効利用しているといえないか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> クリーンパーク茂原で焼却時に発電しているので、サーマルリサイクルしているといえる。ただ、石油からできているプラスチックは燃やすときの熱量が大きい。8頁から9頁に、2工場の平成19年以降の処理能力が表になっている。平成22年に、その他プラを分別せず焼却した場合の焼却ごみ量が166,000tであるのに対して、分別して燃やさない場合は158,000tと、8,000tの焼却ごみ量が減少し、13,000tも処理能力が上がる。現在はサーマルリサイクルをしているというより、施設の能力を低下させていると認識している。 環境負荷の軽減という点では、分別収集した場合は、二酸化炭素の発生量が年26,000トンから年5,500トンに減少し、年間2万トンの二酸化炭素発生量を抑えることができるため、分別により大きな効果があると考えている。 |
| 服部委員 | <ul style="list-style-type: none"> 18頁で、旧下荒針清掃工場が候補地としてあげられているが、デメリットとして、環境負荷がもっとも多いとされている。その理由として自動車排ガスが多いということだが、これは位置の問題だろうか。 下荒針ではランニングコストの人員費が他の2つより高くなり、他の候補地では既存施設と兼ねることで管理部門の要員削減が可能と書かれている。これは、公設民営の場合も同じなのか。 |

| | |
|------|---|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘の通り、位置の問題である。パッカー車の排ガスによる環境負荷が少ないのは南清掃センターで、街の中心部から近く、ごみの収集効率がよいためである。 ・ 南・北清掃工場では既に焼却施設があるため、計量や管理部門などはその他プラ資源化施設を作っても作業を兼任できるため人件費がかからない。下荒針は現在稼働している施設がないため、作業員の新たな雇用による人件費が見込まれる。これは、公設民営であっても同様である。 |
| 真壁委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 11頁の③で、LCA的手法と、LCC的手法について、説明をしていただきたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ LCA（ライフサイクルアセスメント）は、物が製造されてから、消費・廃棄されるまでのライフサイクルを通じて環境に与える影響を評価する方法であり、主に二酸化炭素の発生量を算出するものである。LCC（ライフサイクルコスト）は、物が製造され、消費・廃棄されるまでのライフサイクルを通じての費用を経済的に評価するものである。今回の評価にあたっては、収集運搬・中間処理・埋立に係る二酸化炭素の発生量や人件費などを調査した。なお、LCAについては、一般廃棄物処理基本計画で解説している。 |
| 真壁委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 37頁の中段の表の人件費の試算が24人でなく、22人ではないか。また、その表では公設民営の方が公設公営に比べて2億9千万円安くなる。（公設公営15億6千万、公設民営12億7千万円）。39頁でみると、20年間の総事業費が公設民営だと8千3百万円安い。また、44頁の採点表の点数差をみてもほとんど差がない。それなら、公設民営でやるべきではないか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 総事業費の差は20年間で8千3百万円だが、年間で4百万円で、大きな差ではないとして44頁の表では5点づつにしている。また、「公設民営」と「公設公営」の違いは地元調整の部分であり、この差が点数の違いに反映している。下荒針工場跡地は、51年10月当時、下荒針農事組合と公害協定を結び、工場の新設においては農事組合と協議するという協定書を取り交わしている。「公設民営」では地元理解が難しいという事情があるが、委員のご指摘の通りほとんど差がないので、今後費用対効果等を踏まえ、どういう手法がよいのか考えていきたい。 |
| 金枝委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費の人数は24名でいいのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 37頁の表は管理部門2名、運転部門20名で合計22名である。 |
| 結城委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 7頁で、白色トレイは今後分別収集とあるが、現在、色のついたトレイやその他プラは焼却処理している。これは、その他プラの中間処理施設ができていないから一般の焼却ごみと一緒にしているということか。 ・ また、施設ができてから分別収集を行なうから平成22年から開始ということなのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 白色トレイや紙パックは現在拠点回収を行なっているが、分別協力度が低いので、平成22年度からその他プラに合わせてごみステーションで分別収集をしていきたい。 ・ その他プラの中でも白色トレイは純度が非常に高いため、別に回収して、再び白色トレイに戻すようなリサイクルを考えている。その他の有色のトレイについては、その他プラとして平成22年から分別回収し、資源化していく。 ・ その他プラの資料を配布したい。（資料配布） |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料では、その他プラの例として、 ○レジ袋・ポリ袋，ラップ・フィルム類（袋類，ペットボトルのラベル） ○プラスチック製容器（卵などのパックやカップめん等の容器類） ○ボトル類（ペットボトル以外のシャンプーなどのボトル類） ○発泡スチロール類（緩衝材や生鮮食品の発泡スチロール類） ○チューブ類（マヨネーズや歯磨き粉のチューブ類。ただし、使い切ってきれいにしないと再生が難しい） ○その他（果物のネットやペットボトルのキャップ類など） <p>など、「プラ」マークがついているものがあげられている。また、ハンガー，CD，バケツ等の容器包装以外のプラスチックは対象外となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これらをその他プラとして22年から分別収集したいと考えている。 |
|-----|--|

| |
|--|
| 議 事 |
| 2. 平成19年度一般廃棄物処理実施計画（案）について 事務局から説明 |

| 発言要旨 | |
|--------------------------|---|
| 平成19年度一般廃棄物処理実施計画（案）について | |
| 新津委員 | ・ 2頁の一般廃棄物の処理量で、紙布類を45%減量するとあるが、実現可能なのか。切り札になる取組があれば紹介していただきたい。 |
| 事務局 | ・ 紙布類は集団回収や資源物として市民にとっても分別しやすい項目である。広報誌，リサイクル推進員を中心とした資源化の働きかけを通じて資源化が図られると思っている。 |
| 新津委員 | ・ ダンボールや新聞は分別協力度が高い。その他の紙も同じ紙類なら、新聞チラシと一緒に回収してもいい、といった方法をとらなければ、難しいのではないかと。 |
| 事務局 | ・ 小さな紙の分別は難しく、今後の課題である。 |
| 寺内委員 | ・ 実際に分別をするときに、スーパーの紙袋に入れれば散れることはない。 |
| 事務局 | ・ 焼却ごみの中に混じっている紙資源が15%あり、メモ類，タバコの箱，ティシュの箱等をもったいない資源ごみとして、紙袋やポリ袋で分別するように、自治会説明会などで半年間かけてお願いしてきた。新聞・チラシと、その他の紙は資源化する方法が違うので、新聞とは別にして出してもらいたい。 |
| 新津委員 | ・ 半年や1年で、紙袋で出す資源物がどれくらい増えたのか調べたのだろうか。近所では紙袋で出された資源物を見かけていない。 |
| 事務局 | ・ 統計は取っていない。 |
| 新津委員 | ・ 統計を取って、良くなっているかどうか工夫するように要望したい。 |

| | |
|------|--|
| 柏崎委員 | <ul style="list-style-type: none"> 地域のリサイクル推進員が指導を徹底すれば、今のような問題点は解消するのではないか。地域によっては活動が活発なところは他の紙をきちんと分別して徹底している。これからもきめ細かに推進すれば解消するものとする。 |
|------|--|

3. その他

| 発言要旨 | |
|------|---|
| 寺内委員 | <ul style="list-style-type: none"> 資源物の集団回収の補助金は何%くらいの率で出しているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 重さに対して5円/kgである。 |
| 寺内委員 | <ul style="list-style-type: none"> 何十年もずっと5円/kgではないだろうか。単価をあげればもっと集団回収に協力するのではないか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 平成12年から1kgにつき5円である。平成2年から11年までが4円/kgであった。 |
| 今井会長 | <ul style="list-style-type: none"> 他にないようですので、以上をもちまして、第3回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会を終了いたします。 |